



東京赤坂ロータリークラブ

NO.1378 / 2016.09.02

例 会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目 アネックス 3F

TeL 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

http://www.akasakarotary.com/

東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2016~2017 年度クラブテーマ
会長 岩上 義明

「未来に向かって 皆で一步前へ進もう！」

●本日の例会/ 2016 年 9 月 2 日 第 1408 回
第 2 回 クラブ協議会 ガバナー補佐公式訪問
(13:10~ B1F「オーロラ」)

テーマ : 「30周年記念について」

●前回報告/ 2016 年 8 月 26 日 第 1407 回例会

卓話 : 「貧困の連鎖を断ち切る
~子供の貧困の現状と今後の課題」
公益財団法人あすのば代表理事
小河 光治 氏



紹介者 : 藤井(宏) 会員

会員増強委員会 : (穂苺委員長)

西澤さんの協力を得ながら増強に力をいれていきます。増強はもちろんですが、研修委員会のほうで研修の資料を作成し、火曜会の前に研修をしていくことになりました。さらに候補者の方々のために、赤坂 RC をご紹介する手軽に読める冊子を作成しました。これを活用していただければと思います。勧誘とともに研修活動もしていきたいと思っています。

幹事報告 :

麻布 RC さんとの合同例会は 4 月 1 9 日 (水) が合同例会となりました。その週の 4 月 2 2 日は休会となります。4 月 2 2 日のクラブ協議会は、4 月 1 4 日へ変更となります。



8 月 26 日 11 件 25,000 円
累計 269,000 円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

岩上義明/小河様、本日の卓話宜しくお願い致します。石井さん、高須さん昨日はありがとうございました。河邊幸夫/永さん、本ありがとうございました。土屋東一/永さん御著作を頂戴しありがとうございました。ニコニコ当番代理ご苦労様です。入沢頼二/永さんニコニコご苦労様です。西澤民夫/次週のクラブ協議会はよろしくお願ひいたします。永さんご苦労様です。石井達/小河さまの卓話楽しみにしております。年のせいか、何でも先送りの傾向がありますが何とかやっております。石井謙次/岩上会長、昨日は大変お世話になりました。永さんニコニコご苦労様です。穂苺裕久/少し気が早いですが、伊調馨選手祝国民栄誉賞！永さんニコニコご苦労様です。藤井万博/ここ数日暑さがぶりかえしてきましたね。永さんニコニコ担当引き受けいただきありがとうございます。熊本誠司/先週土日で青少年交換留学生達と富士山に登りましたが、大雨で 6 合目で下山しました。永さんニコニコお疲れ様です。藤井宏章/小河さん、大変ご無沙汰しております。小河家で毎度飲んでいた頃が昨日のようですね。小河さんの益々のご活躍を楽しみにしております。本日の卓話よろしくお願ひします。

出席報告 : 会員 55 名 / 出席 32 名 欠席 23 名

ゲスト : 小河 光治 (卓話)、亀岡健一

合計 2 名 (順不同・敬称略)

●次回予告 / 2016 年 9 月 9 日 第 1409 回例会

卓話 : 「香り~ワンダーワールド」

高砂香料工業株式会社

フレグランス研究所 平野 奈緒美 様

きれいな水で美味しいビールを ロータリー会員が新たなアプローチ

皆さんはビールを飲むとき、主要な原料である「水」について考えたことはありますか？あるロータリアンのグループがこの水について考え、画期的な活動をはじめました。グループの名前は「Beers Rotarians Enjoy Worldwide (BREW)」(世界中でビールを楽しむロータリアンの親睦活動グループ)。英語で「醸造する」を意味する「BREW」と略されるこのグループは世界中でイベントを開き、ロータリーの重点分野である水と衛生のための資金調達活動を行っています。メンバーの一人であるスティーブン・ラックさん(米国カリフォルニア州プレザントヒル・ロータリークラブ)は次のように話します。「ビールを飲むことで、例えばアフリカの村にきれいな水を届けられます。ビール好きで、ビールを買ったお金で世界でよいことができるなら、まさに一石二鳥ではないでしょうか」

BREW のようなロータリーの「親睦活動グループ」は、情熱を同じくするロータリアンが集まるグループである

一方、同じような集まりに、「ロータリアン行動グループ」があります。行動グループの場合、ある特定の奉仕分野の知識や経験を持つロータリアンがメンバーとなっており、BREW はそこに目をつけました。きれいな水の提供を専門とする行動グループと協力すれば、より大規模に活動を展開できるのではないかと思ったのです。

「ビールをつくるには水が必要ですから、切っても切り離せない関係」と話すのは、BREW の共同創設者でアクラ・ウェスト・ロータリークラブ（ガーナ）元会長のモーゼス・アイリーさんです。「ビールは世界中で愛されています。私たちの目標は、世界中できれいな水を提供することです」

BREW のメンバーは、「水と衛生のロータリアン行動グループ」と協力して、支援する水プロジェクトを選び、これらのプロジェクトに親睦活動グループ会費の 25% を寄付しています。メンバーはまた、資金面でのサポートを得るために、全大陸の大手ビール会社に働きかけています。この分野ではすでに、Water.org という非営利団体が、ステラ・アルトワから 120 万ドルの助成金を受けています。

ロータリーによるこのような水プロジェクトによって多くの人たちの生活が改善されます。世界では、不衛生な水が原因で毎日 3,000 人の子どもが、また、水を介した病気で 8,000 人が命を落としていると言われていています。さらに、世界の多くの地域では、女性が水汲みのためにかなりの時間を費やしていることも分かっています。この同じ時間を、水汲みではなく、家族の世話や仕事、社会貢献にあてることができるはずです。

水と衛生のロータリアン行動グループ元委員長の F. ロナルド・デンハムさん（カナダ、トロント・エグリントン・ロータリークラブ）は、親睦グループとの協力を情熱を傾けています。デンハムさんは次のように話します。「当グループが水プロジェクトについて情報を提供する一方で、BREW はビール醸造元との関係を築きます。BREW のメンバーの中にはビール醸造会社の幹部もいますので、素晴らしい相乗効果があります」

ファンレイジングの青写真

ラックさんとアイリーさんが 2014 年にこの親睦活動グループを立ち上げるきっかけとなったのは、「楽しくビールを飲んで、親睦を深める」というアイデアでした。つまり、ビールを通じてロータリーをもっと面白くできるのではないかと考えたのです。それだけでなく、ビールという共通の楽しみのために集まった人が「世界でよいこと」を行うという目的の下に結束できるという魅力もありました。

『ロータリーを楽しく』というのが私たちのモットー」とラックさん。「集まってビールを飲むというのは、それだけで交流であり、みんなが平等に、一つになれることなんです」

行動グループとの協力だけでなく、BREW はクラブによるビール・フェスティバルの開催も支援しています。この手のイベントは若い人にアピールできるだけでなく、クラブのプロジェクトの募金につながり、しかも、わりと簡単に計画できます。ラックさんによれば、ビール・フェスティバル開催の留意点は以下の通りです。

- ・ いくつかの地ビールメーカーに働きかけ、ビールを寄付してもらおう / ・ 食べ物を振舞うか、屋台を設置する
- ・ バンドに演奏してもらおう / ・ テントを張る

最近では地ビール産業が成長しつつあり、その人気に便乗しない手はないとラックさんは話します。このようなフェスティバルは大抵 2 時間程度で、配布するビールはコップに少量、しかも長い列に並ぶことになるため、ゲストが酔っ払ってしまう危険はありません。

カリフォルニア州のダンズミュア・ロータリークラブは毎年 8 月、「The State of Jefferson Brew Fest」を主催しています。1,500 人ほどの来場者があるこのフェスティバルでは昨年、クラブのプロジェクトのために 15,000 ドルの募金に成功。今年も、自家製ビールのコンテストとゲーム大会も同時に実施し、来年は 2 日間のイベントとすることを計画しています。この他に人気が高まっているフェスティバルは、カリフォルニア州の「Weed Brew Fest」やフロリダ州の「Brew on the Bay in Key Largo」など。BREW では、ロータリークラブが主催するビール・フェスティバルを推進しています。

クラブの士気を高めるのにも効果的

ノースカロライナ州フランクリン・ロータリークラブ元会長のレニー・ジョーダンさんは、地元で醸造所を営んでおり、BREW について知ったとき、早速 20 人のクラブ仲間とグループに加わりました。

「カジュアルな雰囲気の中で会員が集まれるのが魅力的」とジョーダンさん。「この親睦活動の一環で行った日帰り旅行に参加したある女性が、クラブに入会してくれました。親睦活動は、会員増強につながるだけでなく、会員の士気を高めるにも効果的です」

単にビールを楽しむだけでなく、メンバーはビールに関する知識も深めています。例えば、水組成の違いで、地域特有のビールができるということ。アイルランドのダブリンは黒ビールで有名ですが、その理由は、水のアルカリ含有量が高いため。イースト菌はアルカリ性の高い水だとうまく発酵しないため、現地のビール醸造者はあらかじめ大麦をあぶり、アルカリ性を低くするという手法を開発。こうすることで色の黒いビールになったのだそうです。また、軟水で有名なチェコのピルセンでは、世界初のピルスナー・ビールが生まれました。

ビールにはこんな知られざる秘密もあります。歴史的に、ビールは安全な飲み水がない場所で、水の代わりとして飲まれてきました。ビール醸造のプロセスで煮沸するため、水よりも安全なのです。ラックさんによれば、水が飲めない地域で、非常に美味しいビールが作られているケースもあるとのこと。

5 月にソウルで開かれたロータリー国際大会に参加した 60 名の BREW メンバーは、現地のパブに集合しました。日本、ロシア、南米、オーストラリア、インド、ヨーロッパ、アフリカ、北米など世界各地から集ったメンバーは、韓国のビールを味わいながら交流を深めました。2017 年のアトランタ国際大会でも、現地の醸造所ツアーを計画しています。

「アトランタには色々な種類の地ビールメーカーがあり、ロータリアンが経営しているメーカーもあります」とラックさん。「友愛の家のブースでビールの試飲も計画しています。ビールの親睦活動なので、やっぱりビールを振舞わないと」

（記事：Arnold R. Grahl 24-Aug-2016 <https://www.rotary.org/ja> より）